

「この街」のために。「あなた」のために。

そうこう®

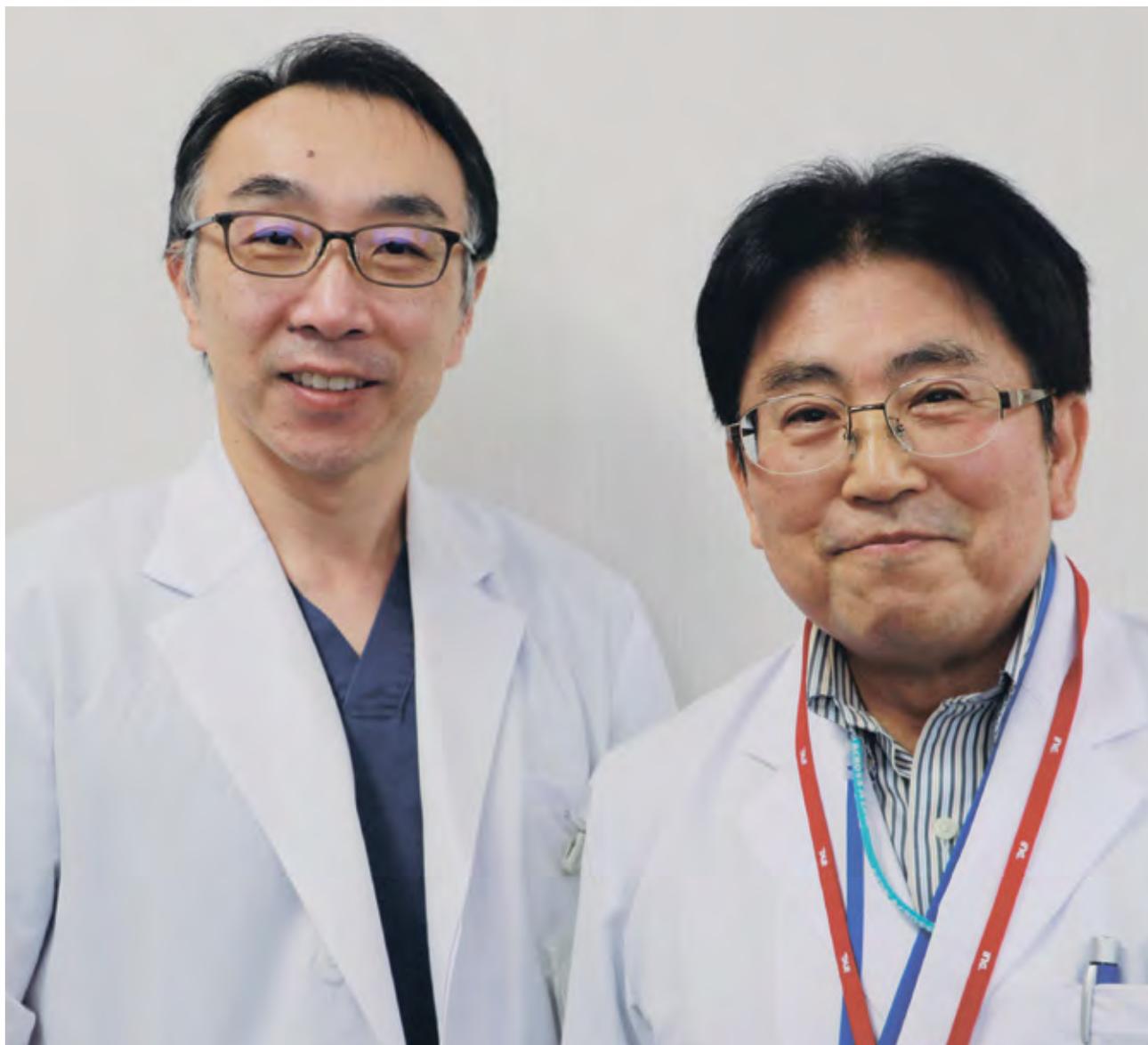
S O U K O U

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL : 048-552-1111

2019年2月号(月10) 発行：社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



2019 / 2月発行 / vol.047

新春特別対談▶

『地域完結型医療の未来』 林副院長&川原林外科部長

医療安全管理部からのお知らせ▶

インフルエンザの患者さん・ご家族・周囲の方へ



「特別対談」

地域完結型医療の未来



地域を支える。

■地域の医療について。

林 現在はどこも病院完結型の医療を行っています。行田市周辺はもちろん、全国的に見ても少子高齢化は進んでいます。これから先も人口構成比の変化は顕著に現われるでしょう。高齢者中心となると治療の方針や目標も変わってきます。社会復帰して仕事をバリバリという訳でなく、住み慣れた地元で余生を送りたいと希望する人が増えてきます。「地域で診て回復させて自宅に帰す」という考え方が理想の形だと思っています。

川原林 全国的に高齢化していくことは確かなのですが、この地域は都内で暮らす団塊の世代が周辺地域に移住するといわれている『ドーナツ化現象』の受皿になるのではないかと考えています。全国から介護施設等がこの地域に進出しているのはそれらを踏まえてのようです。

「この地域に住みたい」と

「新南棟の上空から当院を見下ろすと

改めて地域との調和、人々とのつながりを感じますね」

「2021年には新病棟も完成予定です」

■新春特別対談

副院長／泌尿器科部長・林医師と外科部長・川原林医師に地域完結型医療と診療科の今後、そして当院の進むべき未来についてお話をいただきました。

思ってもらえる町になるためには、医療の充実が基盤になります。当院が果たすべき役割は非常に大きいと思います。

林 救急件数が多い当院には高度急性期病院としての位置付けが合っています。急性期と慢性期の機能分化を視野に入れつつ、高度急性期として高齢者を中心にあらゆる世代を診ていき、生活中心の医療、介護や在宅も含め、「患者さんの一生をトータルで支えていく」という概念が必要になってきます。

川原林 当院には介護事業部もありますし、特別養護老人

ホームもあります。まさに高齢者がこの地域で穏やかに一生暮らしていくために生活面はまだ入り込んだ地域完結型医療を構築できるのではないのでしょうか。

■診療科について。

林 泌尿器科は一昨年からダ・ヴィンチ（ロボット支援手術）を初めています。前立腺がんから始まり、腎がん、膀胱がん（対談時3症例）まで行っています。常勤の高島医師・澤田医師・坪井医師・

井本医師と共に1年半経って改めて感じていることは、「出

血が少ない」「手術時間が短い」「色々な角度からアプローチできるのでがんの取り残しがほとんどない」など、とにかく低侵襲であることが世間一般にも浸透してきており、地域の先生方はもちろん、徐々に広範囲の地域からも紹介が増えています。

今年、外科がダ・ヴィンチによるロボット支援手術を開始したら当院は完全に高度急性期病院として埼玉県北部を支える病院として名乗りをあげるようになるでしょう。

川原林 外科では、集学的治療をできる体制を整えていき



外科部長

川原林伸昭

平成5年 防衛医科大学校卒
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医
日本がん治療認定機構暫定教育医
マンモグラフィ読影認定医



『この町になら
ずっと住み続けたい』と
思っていただけのように。

医療の充実によって

とが知られています。また、化学療法においても口内炎対策や口腔内ヘルペスの治療などが重要です。緩和ケアにおいても顎骨壊死や口腔内乾燥対策など、最後まで口から食事をしていただけるようにケアが必要です。周辺の歯科医の先生方と連携して、より良いがん治療が提供できるように協力していきます。

林 がん治療については県の指定病院ですから地域で果たす役割が大きいですね。
川原林 はい。そして外科もダ・ヴィンチを始めます。ロボット支援手術はこれから必ず主流になりますので、できるだけ早期に開始してより安全な手術を提供できるようにしたいです。東京医科歯科大学の絹笠祐介医師にプロク

▼2018年7月に手術室が拡張され全5室となった。地域の未来を見据え、更なる拡張も予定されている。



一人のお年寄りを
高度急性期医療から
回復期リハビリ、在宅、
介護までトータルで診ていける病院に。

副院長／泌尿器科部長

林 暁

昭和58年 秋田大学卒
日本泌尿器科学会指導医・専門医
日本ロボット外科学会 Da Vinci Certificate

▲◀ダ・ヴィンチによるロボット支援手術は泌尿器科に続き、消化器外科でも本年6月からスタートする。まずは直腸がん摘出から始まり、胃がんの摘出まで視野に入れている。

▶2018年5月には血管撮影室が新増築され、ハイブレン血管連続撮影装置も導入された。脳神経外科、血管外科、循環器内科の検査・血管内治療件数の増加に対応していく。



■**当院の未来を見つめて。**
川原林 高齢者が増えるのがんと血管病が増えるため、がん診療と脳神経外科、循環

ターとしてご協力いただけることになりました。6月に直腸がんの手術から始め、将来的には胃がんまで進めて行きたいと考えています。
林 食道がんなどもあるし、外科の範囲が広がりますね。まずは直腸がんをしつかりやって、それから大腸がん、胃がんを進めてください。当院の外科がダ・ヴィンチをやっているとなると地域はもちろん、より広域の方々にも大きな話題となることでしょう。
川原林 そうですね。さらには若手医師で当院を希望する方が増えると思います。一つの目標としては、教育ができる施設になる。当院で育てた医師たちがどこかで勉強をして、また戻って来るというようになれば地域として安定した医療をずっと提供できるようになりますから。

と生活していくよー!』といった考え方の地域基盤になれるように未来を見つめていきましょう。 ※インタビュー…広報

器内科が注目されてきます。
林 内科に関しては広く全般的に診られる医師が必要とされてきますね。
川原林 単一の疾患というのは珍しくなってきました。全体を診る総合診療科と専門性の高い診療科で一人の患者さまを診るチーム医療が必要になります。さらには薬剤師、看護師、臨床心理士、管理栄養士、理学療法士、作業療法士など、多職種でチーム医療を行います。これまで以上にこの地域の特性に合わせて必要とされる人材を確保・育成していく必要があります。
林 救急については年間5000件を超えるでしょう。
川原林 地域に信頼できる病院があることが、住民の安心に繋がります。地域の発展にも寄与します。果ては『この地域に移り住みたい。この町でなら病気になるのも安心。ずっと生活していくよー!』とい

たいと考えています。昨年策定された第3期がん対策基本計画では『がん・ゲノム医療の充実』が取り上げられています。手術、抗がん剤治療、緩和ケアに加えて、『がんゲノム医療』が今後のがん診療の一翼を担うことになり、一人一人に最適な医療『プレシジョン・メディシン（個別化医療）』を実施できるよう、オールジャパンで取り組むことになっていきます。当院としても、この地域の方々にも『がんゲノム治療』の恩恵を受けていただけるように、その人材や設備を整えて行く必要があります。

今後は、埼玉医科大学小児科遺伝子診療部準備室長／難病センター副長である大竹明教授のご支援を賜り、臨床遺伝専門医の育成を始める予定です。また遺伝子カウンセラーの育成も急務です。遺伝子を扱う管理者の育成や遺伝子関連の情報管理システム作りを行っていく必要があると考えています。
林 一方で化学療法に目を向

けると、最近の抗がん剤は分子標的治療薬など極めて効果が高いようです。ただし、副作用もあるため極めて慎重な扱いが必要となります。そこで泌尿器科には4月から化学療法中心の森本医師が常勤で入職する予定です。今後は外科と一緒に勉強させていただき、ダ・ヴィンチに加えて化学療法にも重きを置いていきたいと考えています。
川原林 福元医師が日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医を持っています。県北ではこの資格を持つ常勤医師は数えるほどしかいません。あとは、集学的治療をできる体制という意味で放射線治療を他院と連携してやっていきたいですね。

NEWS & TOPICS

2018.11-2019.1

生活習慣病予防講座～医師から学ぶ生活習慣病予防～
行田市保健センター



2018年11月21日(水)

市民公開講座で川嶋理事長が講演。

行田市保健センター主催の公開講座が開催され、『生活習慣病の予防』について川嶋理事長が講演を行いました。「行田市の健康寿命の年次推移」「生活習慣病の種類・原因」「動脈硬化」「食事」「血圧」「健康習慣」などについて症例を提示しながら医師ならではの視点で話された内容は大変興味深く、約40名の参加者からご好評をいただきました。

クリスマスハンドベルコンサート
新南棟1Fロビー



2018年12月20日(水)

約80名が参加されました。

当院と特別養護老人ホーム雅のスタッフによる演奏で『ジングルベル』『恋人がサンタクロース』『アヴェ・マリア』『星に願いを』等の曲が響き渡りました。

オリジナルウォーター完成！
各イベント会場にて配布



2019年1月吉日

当院のロゴや病院機能説明付。

研修医や看護師を募集するイベントなどでお配りするためにオリジナルウォーターを製作しました。機会があればぜひお手にとってください。

北埼玉歯科医師会行田支部 常会
行田市商工センター



2018年11月28日(水)

お口の中を整えることも『がん治療』の一部です。

がん患者さまのお口のケアをサポートするがん診療医科歯科連携。がん診療指定病院である当院と地域のがん連携登録歯科医院との関係をより深めるために、当院外科部長・川原林医師が「お口のケア依頼」や「入院前のお口のケア」「口腔内の情報提示」「定期的なフォローアップ」、「人工股関節置換」「脳卒中」などについて講演させていただきました。



インフルエンザの患者さん・ご家族・周囲の方々へ

インフルエンザにかかった時は、飛び降りなどの異常行動をおこすおそれがあります。
特に発熱から2日間は要注意！
窓の鍵を確実にかけるなど、異常行動に備えた対策を徹底してください。

異常行動による転落等の事故を防ぐためのお願い

- インフルエンザの患者さんでは、抗インフルエンザウイルス薬の服用の有無や種類にかかわらず、異常行動に関連すると考えられる転落死等が報告されています。
- 異常行動は、①就学以降の小児・未成年者の男性で報告が多い(女性でも発現する) ②発熱から2日間以内に発現することが多いことが知られています。

異常行動の例

- 突然笑い出し、階段を駆け上ろうとする
- 変なことを言い出し、泣きながら部屋の中を動き回る など
- 自宅から出て外を歩いていて、話しかけても反応しない

万が一の転落等の事故を防止するため、発熱から少なくとも2日間は、就寝を含め、特に小児・未成年者が容易に住居外へ飛び出さないために、例えば、以下のような対策を講じてください。

- 玄関や全ての部屋の窓を確実に施錠する(内鍵、チェーンロック、補助錠がある場合は、その活用をきむ)
- 窓に格子のある部屋がある場合は、その部屋で寝かせる
- ベランダに面していない部屋で寝かせる
- 一戸建てにお住まいの場合は、できる限り1階で寝かせる

厚生労働省

医療安全管理部からのお知らせ

インフルエンザが流行るこの時期、手洗い、マスク、うがい、と注意はしていても罹ってしまうことがあります。国立感染症研究所 HP の最新の情報(1月30日現在)によると、定点あたりの患者報告数ワースト1位は埼玉県、2位新潟県、3位千葉県となっており、年齢別では、5～9歳が最も多く約41.1万人、10～14歳が約29.0万人、0～4歳が約26.9万人、と小児や未成年者の罹患が目立ちます。

小児や未成年者が罹患した場合、特に注意したいのが「異常行動」です。薬の服用の有無にかかわらず、特に発熱から2日間は注意が必要です。

※国立感染症研究所 HP より引用

2019 花粉対策

2019年春のスギ・ヒノキの花粉飛散量は、昨年の花粉飛散量と夏の気象条件から過去10年の平均と同じくらいか、やや多くなると予想されています。

ご心配な方は、流行時期に入る前に当院耳鼻咽喉科を受診し、医師へご相談ください。



ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。

●内視鏡センターからのお知らせ

年に一度は内視鏡検査を！ 当院でならもっと気軽に受けられます。

日本人における死因第1位は、悪性新生物（がん）といわれております。早期にがんを発見するためにも年に1度の内視鏡検査をお勧めします。まずは消化器内科医師の診察予約をお取りください。▶ TEL.048-554-0005

●患者さまから多いご質問。

Q. よく「内視鏡は苦しい...」と聞きますが？

A. できるだけ苦痛を軽減させるようにしておりますが、ご不安の強い方には適度な麻酔薬の使用（眠った状態での検査）も可能です。ご相談ください。

Q. がん治療＝お腹を切る大きな手術となるのでは？

A. 早期発見ができれば、お腹を切らずに内視鏡で治療が可能な場合があります。また、入院日数も1週間前後で退院できます。

[行田総合病院 消化器内科]

●検査科からのお知らせ

軽度認知障害の血液検査『MCI スクリーニング検査』が受けられます。

アルツハイマー型認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）の兆候を早期発見する検査です。軽度認知障害（MCI）とは、健常者と認知症の中間段階を指します。日常生活に支障はありませんが、そのまま経過すると約5年で半数以上が認知症に進行するといわれています。

▶こんな方におすすめします！

■ 50歳以上の方... 認知症が不安。

■ 最近、もの忘れが増えてきた...

■ 親や家族の様子が少し変わった気がする...

■ 肥満や糖尿病など生活習慣病の恐れがある...

※検査は当院にて採血のみです。医事課にお申込みください。検査料金 20,000 円（税別）。

※詳しくは院内に置いてあるパンフレットをご参照ください。

[行田総合病院 検査科]

●「下肢の血管専門外来」／血管外科からのお知らせ

ところで、『足のむくみ』が気になっていませんか？



[illustration] 足がだるい重い.biz

一過性ではなく数日間『足のむくみ』が続くような場合には病気の可能性があります。

- ・ 足がだるい
- ・ 足の血管がポコポコと浮き出ている
- ・ 夕方になると足がむくむ
- ・ 夜間に足がつりやすい

このような症状を少しでも感じたら受付窓口にご相談ください。

血管外科医による診察を行っております。

[行田総合病院「下肢の血管専門外来」／血管外科]